

4月 April	5月 May	6月 June	7月 July	8月 August	9月 September	10月 October	11月 November	12月 December	1月 January	2月 February	3月 March
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

企画展示室・特別展示室 ©展示解説 企画展担当職員が会期中解説を行います。

第115回企画展 4/16(土)ー6/12(日)

「落語と文学」



「話す」落語と「書く」文学との繋がりを紹介するとともに、落語の影響が見られる文学作品を展示。落語会も開催します。

第116回企画展 7/16(土)ー9/19(月・祝)

「ようこそ絵本の世界へ」



大型絵本や仕掛け絵本、外国の絵本など、さまざまな絵本とその歴史を紹介。西巻茅子氏の『わがいのワンピース』リトグラフや、野村たかあき氏の『ないたあかおに』原画なども展示します。

にしまさかやこ／絵・文『わがいのワンピース』(昭和44年こくま社)
浜田廣介／文・野村たかあき／絵『ないたあかおに』(平成25年 講談社)

第117回企画展 10/8(土)ー12/18(日)

萩原朔太郎大全 2022 「群馬と詩人と朔太郎」



萩原朔太郎署名入りポートレート(大正3年10月)

詩人萩原朔太郎の没後80年を記念した共同展示。当館では、朔太郎と同時代を生きた同郷の詩人、山村暮鳥、大手拓次、萩原恭次郎、高橋元吉、伊藤信吉らとの交流を通し、萩原朔太郎の詩的変遷に迫ります。

第118回企画展 1/21(土)ー3/21(火・祝)

「文学者の愛用品展」



ギター(浅田晃彦旧蔵)

20万点を超す当館の収蔵資料の中から、文学者が愛用していた文房具や衣類、ラジオ、ギター、少年少女雑誌などを展示します。

常設展示室 常設展示「土屋文明ーその作品と生涯ー」 文化勲章も受賞した日本を代表する歌人・土屋文明(明治23年(1890)9月18日～平成2年(1990)12月8日)の作品と生涯を紹介しています。



吉田漱「土屋文明の伯父 福島周次郎の家のスケッチ」(複製)

第1章 榛名山のふもとで育つー『アカネ』への投稿ー
明治23年(1890)～明治42年(1909)
現在の群馬県高崎市保渡田町に生まれ伯父夫妻のもとで育ち、上野尋常小学校から旧制高崎中学校に進み、卒業後は国漢教師・村上成之(納魚)の紹介で伊藤左千夫を頼って上京しました。



土屋文明『ふゆくさ』古今書院 大正14年(1925)

第2章 東京から長野へー短歌と小説と教職とー
明治42年(1909)～昭和5年(1930)
旧制第一高等学校に入学し、東京帝国大学進学後は井出説太郎の名で小説も発表しました。島木赤彦の推薦で27歳から33歳まで女学校の教頭・校長として長野県の諏訪と松本で過ごし、再上京後に第一歌集『ふゆくさ』を出版しました。



『アララギ』二十五周年記念号 昭和8年(1933)1月号

第3章 歌壇の中枢にー写生、破調、思想的抒情詩ー
昭和5年(1930)～昭和20年(1945)
工場や鉄道などの近代的風物を、極端な字余りでありながらも緊張感を持った韻律で詠んだ独自の作品が生まれ、短歌史に残る重要作となりました。昭和5年(1930)には、『アララギ』の編集発行人になっています。



土屋文明愛用のキャラバンシューズ

第4章 万葉集研究の継続ー自らの足で感じるー
万葉集研究は、短歌結社「アララギ」に引き継がれる重要テーマです。文明は万葉ゆかりの地をよく歩き、その成果は4,500首以上ある万葉集の全歌注釈『万葉集私注』(全20巻、1949-1956年)に結実しました。



疎開地川戸にて 子山羊を抱く三女・静子らとともに(左から2人が文明)

第5章 川戸への疎開ー敗戦と第二芸術論に抗してー
昭和20年(1945)～昭和26年(1951)
空襲で現在の東京都港区南青山の家を焼失した文明は昭和20年(1945)6月、当時の群馬県吾妻郡原町川戸に疎開。敗戦後の虚無感や、俳句・短歌を芸術以下の「第二芸術」と貶める論調に抗し、短歌や言葉の可能性を擁護する力強い作品を生み出しました。



第6章 東京南青山での日々ー歌壇の最長老にー
昭和26年(1951)～平成2年(1990)

昭和26年(1951)11月、疎開先から南青山に戻ってきた文明は、昭和28年(1953)に宮中歌会始の選者となり、『万葉集私注』で芸術院賞を受賞。その後も作歌はもちろん『アララギ』や新聞の選歌に力を注ぎ、96歳の時には文化勲章を受章しました。



移築書斎 新居の設計は、歌人で設計技師であった近藤芳美が行いました。書斎は、引戸がついた本棚や、窓ガラス手前

移築書斎 新居の設計は、歌人で設計技師であった近藤芳美が行いました。書斎は、引戸がついた本棚や、窓ガラス手前から約40本の木々が当時の配置を参考にして移植され、文明の長女・草子がこれを「方竹の庭」と名付けました。方竹とは四角に近い断面を持つ竹、シロウチクのことです。



「三十六歌人」コーナー

展示室中央部を取り囲む柱の中には、中学校・高校の教科書をベースにして当館が選んだ36人の歌人人形が埋め込まれ、それぞれ1首ずつの短歌を紹介しています。万葉集の歌人から近代以降の歌人までが並びます。その他に、短歌関係の実物資料も展示しています。